

## Event Photo



### 5 2 ご神木のビヤクシン 横倒しのまま地域を見守る

因島田熊町にある藤原神社のビヤクシンは、約500年前からこの地を見守ってきたと言われており、市の天然記念物にも指定されています。令和2年7月に雨のため横倒しとなり、樹勢回復治療が行われていましたが、倒れた状態で生きていける状態に回復し、そのまま保存されることとなりました。

5月2日(日)にはビヤクシン保存作業の完了や倒壊していた藤原神社の落慶を祝う式典が開催され、田熊神代神楽の奉納や、樹勢回復作業中に出た端材を利用した記念品が振舞われました。(関連記事17頁)



### 5 10 アサリいっぱい採れたかな？

春から初夏にかけて、向島町の干汐干潟で開催される観光潮干狩り。向島町漁協の組合員さんが手入れをした干潟には家族連れなどが訪れ、皆さん一心にアサリを掘っていました。

向島町漁協の木曾組合長によると、栄養が豊富な尾道の海で採れるアサリには旨味が多くあるのだそう。ザルいっぱいにアサリを採った家族連れは「明日の夕食ができました」と嬉しそうに話していました。



### 5 8 9 2年ぶりのみなと祭り 静かに開催

今年で78回目となる「尾道みなと祭」。新型コロナ感染者の急増を受け、急きよ内容を大きく変更しての開催となりました。

当初予定されていたステージイベント等は中止となり、JR尾道駅など3カ所に設置されたテレビモニターでのビデオ放送や、帆船「みらいへ」が寄港し、棧橋からの見学会などのほか、商業会議所記念館広場では日東電工による万華鏡づくりのワークショップも開催されました。訪れた人は、感染対策に配慮しながら、2年ぶりの祭りを楽しんでいました。



### 5 24 尾道産デラウェア初出荷 今年も甘くて美味しいぞ!!

小粒で食べやすい「デラウェア」の出荷が、JA尾道市木ノ庄西選果場で始まりました。尾道産デラウェアは昭和初期から栽培され、現在では県内生産量の9割を占めており、7月中旬頃出荷のピークを迎えます。

今回出荷した原田町の行廣 貢・秀昭さん親子は、「色づき・玉太りがよく、糖度も充分。小さなお子さんたちにたくさん食べてもらいたい」と話していました。